平成２３年度　日立市教育研究会先進校等調査派遣研修報告書

日立市立多賀中学校　教諭　須藤　貴憲

１　派遣期日　　平成23年11月11日（金）

２　研 修 先　　千葉県船橋市立若松小学校　　船橋市立若松中学校

　　所 在 地　　千葉県船橋市若松３丁目２番４号　　船橋市若松３丁目２番３号

http://www. city. funabashi. chiba. jp/gakkou/0001/wakamatu-e/index. html

http://www. city. funabashi. chiba. jp/gakkou/0002/wakamatu-j/index. html

３　研修内容

小学校，中学校の９年間を通じて基礎的・基本的な内容の確実な定着を図るため，学習内容の移行，統合を含めた児童生徒の心身の発達を踏まえた教育課程の研究開発 －「人間としての在り方生き方」教育の視点から教育課程の再構成－

⑴　小中連携・一貫教育の研究経緯

船橋市立若松小・中学校は，平成17年度より小中連携実施校として，小中連携教育についての研究に取り組んできた。平成21年度からは文部科学省より新設領域「在り方生き方」を中心とする研究開発学校の指定を受け，船橋市の小中一貫教育のパイロット校として小中一貫教育のカリキュラム研究開発に取り組むこととした。

⑵　教育課程について

①　若松小・中学校児童生徒の実態と課題

若松小・中学校では，義務教育の９年間で，基本的な学習習慣や生活習慣の確立をはじめ，多くの人との関わりを通しての人格形成や人間関係づくりなどを通して，自分の夢や希望に向かって取り組むことの大切さ，自分自身に自信をもったり，自己有用感を感じたりする取組が必要であると考えた。

②　６－３の区切りから，４－３－２の区切りへ

中学校の入学時は，多くの生徒が夢や希望をもち，新たな生活に意欲的に取り組む姿を多く見ることができることからも，一つのリセットの機会と捉えることができる。しかし，一方では，学習内容が質・量とも増え，小学校の学級担任制から教科担任制への移行期に適応できない中１ギャップの問題も出現する。そこで，義務教育９年間を小学１学年～４学年を第Ⅰ期，小学５年～中学１年を第Ⅱ期，中学２・３年を第Ⅲ期に区切り，リセットする機会を２回設けるとともに，第Ⅱ期から段階的に教科担任制を取り入れ，中１ギャップの解消を図っていく。

児童生徒に確かな学力を身に付けさせるための繰り返しややり直しが可能な指導体系，指導の系統性を図るための学習過程，コミュニケーション能力を高めるための発問の仕方の工夫，話し合い活動の場の設定等により児童生徒の変容を図っていく。

ア　各期の重点目標

第Ⅰ期	小学１年～４年	基礎的・基本的な知識・技能の習得を目指し，学習のまとめ方や家庭における課題への取組の重要性を考え，学習習慣等の確立と基本的な生活習慣の定着を図る。
第Ⅱ期	小学５年～中学１年	一部教科担任制による専門性を生かした学習指導や小学校の教育内容を中学校教育の視点で見直すなどを視野に入れ，課題解決に必要な，思考力，判断力，表現力等を育成する。
第Ⅲ期	中学２・３年	自分の夢や目標を達成するために何が必要かを考え，課題を設定し，解決していく主体的な学習態度を育成する。

イ　授業づくりの共通理解

・　学習習慣の確立や学習意欲の向上など態度形成を図るため，指導や資料の工夫として，発問や板書，ノートやワークシートの活用，話し合い活動や振り返りの場の設定等を踏まえた授業づくりに取り組む。

・　ねらい，手立て，評価の観点を明確にし，小・中学校を通して，指導方法や学習方法の一貫性を保つ。

ウ　研究授業の充実

・　授業改善のため小中の教員が相互に授業参観し，指導技能の向上と教材研究による需要の質を高める。
・　研究授業を通して，運営指導委員，船橋市教育委員会指導主事，研究協力員等の指導を受け，研究の方向性や成果を確認し，日々の実践に生かす。

③　教科教育

小学１年から４年は学級担任制で行う。小学５・６年は，一部教科（理科，英語科，図画工作科，音楽科）を教科担任制で行う。中学１年からは教科担任制で行う。

担　　当	教　科	対　象　学　年	週時数
中学校理科教員	理　科	小学６年	3
中学校英語科教員	英　語	小学５・６年	2
中学校美術科教員	図画工作	小学５・６年	4
中学校数学科教員	算　数	小学２・５・６年	４～６
小学校音楽専科教員	音　楽	中学１～３年	６～８
小学校教員	数　学	中学１年	２～４

④　教育課程の特例

・　週時数を小学５・６年は29時間実施，中学１～３年は30時間実施
・　英語を小学１年～４年は年間35時間（小１は34時間），小学５・６年は年間70時間，中学１年は年間155時間，中学２・３年は年間175時間実施（教育課程特例校の認定）
・　「在り方生き方」（総合的な学習の時間と特別活動を統合した領域）を設置し，小学１・２年は年間35時間，小学３・４年は年間70時間，小学５年～中学３年は年間105時間実施

⑤　学校行事

児童生徒の実態や活動目的を明確にし，各期の系統性及び発達段階・適時制を考慮した活動内容を計画し，連携活動を活性化させ，教育的効果が得られる活動の取組をする。

・　小中合同挨拶・募金活動　　・運動会への相互参加　　・小中合同マラソン大会
・　小中合同美化活動　　・　中学校合唱祭（小学５・６年が参加）
・　小学校音楽発表会（中学校の吹奏楽部が演奏を行う）　　・部活動の体験入部

⑶　施設・設備の活用

①　校庭の活用

・　休み時間での高学年が外遊びをするときに，中学校の校庭を使用する。
・　運動部活動での施設の共有を図り，活動する。

②　体育施設・備品の活用

・　体育学習のハードル走や走り高跳びでの場の工夫に体育備品の共有化を図る。
・　小学生のクラブ活動の際に，中学校の体育館やテニスコートの共有をする。

⑷　公開授業を参観して

中学校の英語科教員が担当している小学５年の英語科の授業は，学級担任とのＴＴで，どの生徒もとても楽しそうに学習していた。中学校に入学してから，今まで習った先生がいるというのは生徒にとって安心感があり，しかもそれが複数教科となると，中１ギャップも解消される可能性が高く，学力向上にもつながっていく。双方の教員にとっても，小中の文化の違い等を学べる貴重な場である。

４　感想

船橋市立若松小・中学校は，隣接した位置関係にある学校であり，その特性を生かし，教育課程の編成の工夫や小・中学校教員による乗り入れ指導等で９年間を見通した教育活動を展開している。本校も現在，隣接している油縄子小学校に小学校の陸上記録会や卒業式等に陸上部の教師や生徒，音楽科の教師が出向いた指導を行っている。位置関係においては若松小・中学校と同じような環境にあるので，時間的な制約等での小・中学校教員による乗り入れ指導等の難しさについて，たとえ隣接していても簡単ではないことはよくわかる。研究開発学校とはいえ，ここまでの取組を行うためにはかなりの苦労があったに違いない。

本校で現在の取組以上に相互の教師や生徒が出向いた指導を行うには，かなりハードルが高いと思う。しかし，目の前の生徒のことを考え，たとえ短時間でも単発でも，何か新たな取組ができないものか考え，今後，実践してみようと思う。